

日本帝國產のトゲグモ屬諸種に就て

A synopsis of the Japanese spinous spiders of the genus

Gasteracantha in broad sense. By K. Kishida.

岸 田 久 吉

東京市板橋區練馬南町 2 丁目 3848 番地

(昭和十二年十月三十日受領)

A トゲグモ屬概説

リネー氏が自然綱目 *Systema naturae* edit. 10, p. 624 に出してゐるアメリカ産の *Aranea caneri ormis* を以てトゲグモ屬 *Gasteracantha* Sundevall, 1833 の模式種と定めてあるけれども、屬の内容に就ては、學者によつて可なり廣狭の差がある。筆者は、廣義には、シモン氏のクモ博物學第二版 pp. 845—847 に出てゐるのから、謂はゆるアウグスタ亞屬を除いたものを以て、廣義のトゲグモ屬とする。此の意味のトゲグモ屬を、次に♀に就て定義する。背甲は四角に近い形をして居り、前半は隆い頭部、後半は低い胸部である。眼域は頭部の前方の全幅を占めてゐる。而して大體 3 群、即ち兩側と中央の眼群になつて居る。中眼群は直眼と第三間眼から成り、側眼群は第一・第二の兩間眼から出来てゐる。直眼は他の眼よりもいく分大きい、第三間眼とだけは同大位である。間眼行は外曲弧を作つて居り、第一間眼列は第二の列よりも少しだけ狭い。第三列は甚しく狭い。中眼域は中眼群の占めてゐるところの部分であつて、梯形を呈し、前邊は後邊よりも狭い。額は直眼の一直徑よりも短い。胸板は心狀長三角形であつて、前に廣く、後に狭い。最廣部位は第二步脚の基節間である。下唇部は判然段がついて、胸板プロパーから區畫された心狀半圓形の薄片であ

る。長さは幅よりもいく分劣つてゐる。上顎は丸く太い。下顎は廣くて角張り、長幅相等しい。觸肢や歩脚は毛があり、刺状のものもあるけれども、眞の刺は無い。腹部は外形は色々であるが、皮膚が十分硬化し、之に棘と印刻を有する點は苦しい。腹部の背面を特に腹楯 abdominal shield or scutum と呼ぶ。棘は大抵3對あつて、2對は側方に突出し、1對は後方に向つてゐる。棘が腹楯の本体からの突起即ち砧の上から出てゐるものもある。棘數は種類によつては少い。同種でも少くなつたのかと思はれる場合がある。腹楯上には11對の大きな蛇の眼狀の印刻がある。之を中線に近い前位のものから外方へ、次に後方へ、最後に内方へ數へて、第一……第九印刻と稱する。残つた2對は中域印刻又は中印刻と云ふ。更にその前後を通じて中線附近に發達してゐるところのこまかい印刻がある。それを微細印刻と云ふ。その排列をあらはすのに筆者は微細印刻式と名付けるところの數式を用ひる。實例は本邦種の記載中に示してある。腹部下面には蛛疣と肛丘をとり圍むところの牆壁が在る。此はコガネグモ科ではトゲグモ亞科の専有する特色である。

トゲグモ類は丸網を造る。場所は平地でも山地でも平氣であるが、何時も樹間である。それから粘部のすぐ外にある蛛絲上には、白色の特別なものをつけることが珍しくない。此の類はかくれ場所や住居は造らない。かくれ帶も拵へぬ様である。成るは筆者は未だ見てゐない。若るは少々有つて居る。成♀の卵囊もまだ檢べたことが無い。

さて此の廣義のトゲグモ屬を、トゲグモ亞科中に於て如何に排列するか、筆者の案は次の通りである。

トゲグモ亞科の群名檢索表

- A 胸板は長さが幅にまさり、後端は銳形である。
- B 腹楯は長さが幅を超えず、後方へ長くは伸びて居ない。…………… トゲグモ群 Gasteracanthae s. r.
- BB 腹楯は後方へ長く銳尖し、後端は2叉に分岐して居る。……………
- …………… アウグスタ群 Augustae n. tr.

AA 胸板は長さが幅を超えず、腹楯は長幅の差が殆ど無く、無棘で、丸い。
 エンキオサツクス群 Encyosacceae n. tr.

B トゲグモ類の属の細分

ベーゼンベルグ・シユトランド兩氏は、ツクネグモを *Gasteracantha sagaensis* として、トゲグモ属のものゝ様に考定してゐるが、之は別属 *Ulexanis* L. Koch, 1872 のものであり別科(ヒメクモ科)のものである。こんな例は除外しても、トゲグモは細分した属名で扱つた方が合理的且つ便利である。筆者は次の如く19属にする。

番號	属 名	番號	属 名
1	<i>Austracantha</i> Dahl, 1914.	10	<i>Aetrocantha</i> Kar. ch, 1879.
2	<i>Togacantha</i> Dahl, 1914.	11	<i>Gasteracantha</i> Sundevall, 1833.
3	<i>Afracantha</i> Dahl, 1914.	12	<i>Petyacantha</i> Kishida, 1922.
4	<i>Stanneoclavus</i> Butler, 1873.	13	<i>Pachypleuracantha</i> Dahl, 1914.
5	<i>Actinacantha</i> Simon, 1864.	14	<i>Anchacantha</i> Butler, 1873.
6	<i>Macracantha</i> Simon, 1864.	15	<i>Thelacantha</i> Hassehl, 1882.
7	<i>Tatacantha</i> Butler, 1873.	16	<i>Acrosomoides</i> Simon, 1887.
8	<i>Hypsocantha</i> Dahl, 1914.	17	<i>Atelacantha</i> Simon, 1864.
9	<i>Isoxya</i> Simon, 1885.	18	<i>Collacantha</i> Simon, 1864.
		19	<i>Tetracantha</i> Simon, 1864.

C トゲグモの細分式属名検索表

- A 腹部の下面、蛛疣の前方にあつては、格別突起と云ふ程のものを認めぬ。
- B 腹部上面に於て、第六印刻は第二棘よりも後方にあるか、又は第二棘の内方に在る。印刻間、第四×第五は第五×第六よりも明かに狭い。
- C 第五印刻は第一棘よりも前方にあるか、又は第一棘の内方に在る。
- D 第五印刻は第一棘よりも前方に在る。
- E すべての棘は砧上に立つてゐない。
- F 第一・第二兩棘は大體同じ位の大きさである。.....
 アウストラカンタ属 *Austracantha*
- FF 第一棘は明かに第二棘よりも小さい。.....
 トガカンタ属 *Togacantha*
- EE 少く共第二第三兩棘は有毛性の大きい砧上に立つて居る。.....

- アフラカンタ属 *Afracantha*
 DD 第五印刻は第一棘の内方に在る。.....
 スタンネオクラビス属 *Stanneoclavus*
 CC 第五印刻は第一棘よりも後方に在る。
 D 印刻第一 第四は外曲弧を描いてゐる。
 E 第二棘は腹部の最大幅よりも短い。..... アクチナカンタ属 *Actinacantha*
 EE 第二棘は腹部の最大幅よりも更に長い。
 F 第二棘の梢端は漸尖してゐる。..... マクラカンタ属 *Macracantha*
 FF 第二棘の梢端は多少共膨大し、紡錘状棍棒状を呈する。.....
 タタカンタ属 *Tatacantha*
 DD 印刻第一—第四は先づ直線上に立つてゐる。棘はすべて小さい。.....
 ヒブサカンタ属 *Hypsacantha*
 BB 腹部上面に於て第五印刻はもとよりのこと、第六印刻も第二棘よりも前方に在る。
 棘は短小で尖り、棘砧は無い。
 C 側棘は大體外側を指してゐる。..... イソキシア属 *Isoxya*
 CC 側棘は上方即ち背方を指してゐる。..... エツロカンタ属 *Aetrocantha*
 AA 腹部の下面、蛛疣の前方にあたつて、一大突起が在り、その突起は殆ど不毛性である。
 B 腹側の棘数は尋常であつて2對を算へる。
 C 前方の印刻は前曲弧上に列んでゐる。
 D 第三棘も立派に在る。
 E 棘砧は無い。
 F すべての棘は同様に短小で、尖つてゐる。
 G 腹部上面は長幅先づ似たものである。.....
 トゲグモ属 *Gasteracantha*
 GG 腹部上面は長さは幅の半分にも足らぬ。.....
 ペチヤカンタ属 *Petyacantha*
 FF 棘は異大性である。
 G 第二棘だけが破格に長大である。.....
 ハラビロトゲグモ属 *Pachypleuracantha*
 GG 第二第三兩棘が長大であり、且つ後方を指してゐる。.....
 カナコキトゲグモ属 *Anchacantha*
 EF 棘砧は第二棘第三棘に見られる。..... チブサトゲグモ属 *Thelacantha*

DD 第三棘は無い。

E 第五印刻は第一棘よりも前方に在る。……………アクロソモイテズ属 *Acrosomoides*EE 第五印刻は第一棘よりも後方に在る。……………アテラカンタ属 *Atelacantha*CC 前方の印刻は直線上に列んでゐる。……………コラカンタ属 *Collacantha*BB 腹側の棘数は異常であつて、唯1對きりである。……………テツラカンタ属 *Tetracantha*

D 日本帝國産トゲグモ類目録及分布表

地 名	沿海	滿洲	北支那	南支那	樺太	千島	北海	朝鮮	本州	四国	九州	小笠原	内南洋	琉球	台湾	ヒリピン	印度支那
蛛 名																	
トゲグモ…	…	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ハラビロトゲグモ…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	×	…	…
チブサトゲグモ…	…	…	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

E 日本帝國産トゲグモ類の♀による種名検索表

I 腹部の棘性によるもの

A すべての棘が砧上に立つてゐない。

B 第二・第三兩棘は先づ同大、第一棘だけは目立つて短小である。…

……………トゲグモ

BB 第二棘は格別に長大である。第三棘は第一棘よりも大きい。…

……………ハラビロトゲグモ

AA 第二・第三兩棘は乳房狀の砧上に立つてゐて、特に目立つが、第一棘は砧を缺き、見掛け上小い。……………チブサトゲグモ

II 腹部上面の印刻によるもの

A 第三・第四・第五の3印刻は前曲弧を描いて居り、第八・第九兩對の印刻も前曲弧上に立つ。

B 第一・第二兩印刻は先づ同大・同形である。前中印刻は後印刻よりも

- 明かに小さく且つ殆ど正圓形である。……………ト ゲ グ モ
- BB 第一・第二兩印刻は明かに異大異形であつて、第一は大きくて長橢圓形、第二は小さくて三角形乃至倒卵形である。前中印刻は後中印刻と同一大形である。……………チブサトゲグモ
- AA 第三・第四・第五の3印刻は斜向の直線を描いて居り、第八・第九兩對の印刻も直線上に立つてゐる。第一・第二兩印刻は倒卵形であつて、第一はぼそり、第二は短廣である。前中印刻は後中印刻よりも小さく且つ斜向しにゐる。……………ハラビロトゲグモ

III 胸板の色彩によるもの

- A 胸板は陰氣な黒地に小い明斑を有する。
- B 第一・第二兩脚の基節間に稍大きい横の淡褐色明斑を具へてゐる。……………ト ゲ グ モ
- BB 第一脚の基節間も、特に前縁近くに、橢圓形の小い赤褐色をした明斑を具へてゐる。……………ハラビロトゲグモ
- AA 胸板は少々陽氣な暗褐色の地に倒V字形などの赤褐色の非常に大きな明斑を具へてゐる。……………チブサトゲグモ

IV 腹部下面の色彩によるもの

- A 灰褐色乃至黒色の地に美しい小黃點を具へてゐる。
- B 小黃點は少數であつて、8—9列上に在る。……………ト ゲ グ モ
- BB 小黃點は可なり多く、6列に在る。……………ハラビロトゲグモ
- AA 黄色の地に汚れた黒色の不整斑を有する。……………チブサトゲグモ

V 頭部の中丘によるもの

- A 頭部中眼域の後方中央に1對の隆起即ち中丘が在る。
- B 中丘間の縦溝、即ち丘間溝は中眼域にまで通らず、且つ全體としても淺くて、不明瞭である。……………ト ゲ グ モ
- BB 丘間溝は中眼域の後邊近くまで達して居り、且つ又全體が可なりに深

く、明瞭である。……………ハラビロトゲグモ

AA 中丘は正中線上に在つて、1個を算へるきりである。勿論丘間溝は無い。

……………チブサトゲグモ

F 日本帝國産トゲグモ類各種の記載

次に前掲3種の♀に就て、査定を誤らないだけの程度に要徴を掲げる。

1 トゲグモ *Gasteracantha kuhli* C. L. Koch, 1838. [Arachniden, Bd. 4, Nuernberg, s. 20, 21. Java] 主な異名 = 1) 1840 — *Plectana acuminata* Walckenaer. 2) 1845 — *Gasteracantha annulipes* C. L. Koch. 3) 1859 — *Plectana leucomelas* Doleschall 4) 1886 — *Gasteracantha annamita* Simon. 5) 1887 — *Gasteracantha leucomelaena* Thorell.

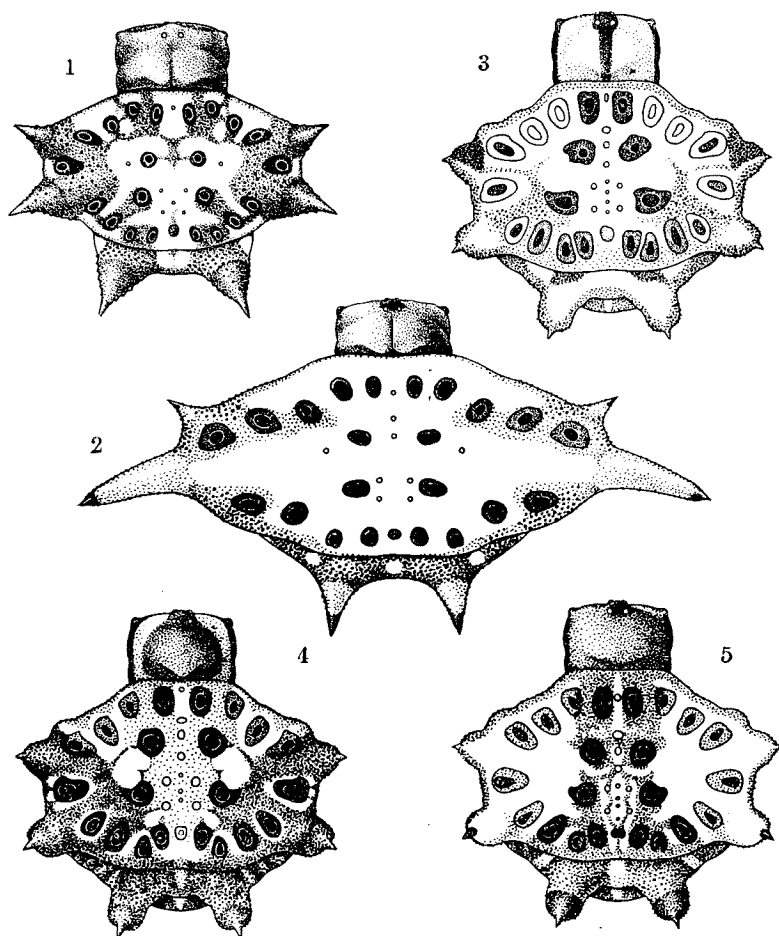
分布 = 大體年平均気温 10° 以上の暖い地方に生活し得るものらしく、地理上からは大體アジアの東部と東南部とに限られてゐる様である。國內ではかつて青森市で筆者自身晩夏に採集したことがあるのが北限らしく、それから以南の本州、四國、九州、琉球、臺灣各地、紅頭嶼、小笠原、内南洋には汎く分布して居ることをたしかめてゐる。又朝鮮主部濟州島でも筆者や同好の士の手に採集されてゐる。滿洲國では安東、大連、北支那では北京、濟南、青島からの標品をしらべてゐる。南支那、海南島の産も筆者は所有してゐる。國外南方ではヒリピン、ボルネオ、ジャワ、スマツラ、馬來半島、ビルマ、アンダマン、ニースニコバル群島等からも知られて居るのである。

測定 ♀の全長 7.0 mm. 發育の可いのは 10.0 mm. にもなる。背甲の長さ 25 mm. 同その幅 3.0 mm. 腹部の長さ 5.0 mm. 同その幅 7.5 mm. 腹部は棘を加へると長さ 6.5 mm. 幅 9.0 mm. になる。

形状 = 背甲は頭部の2中丘を最高所としてそれから前方へ緩かに傾斜してゐる。兩側へは一層緩かに低くなつていく。後方へは急斜も極端である。腹楕は前廣、後狹であり、前縁は大體前曲してゐるけれども、角張つた點が2ヶ所あつて、その中間部は殆ど截形を呈して居る。第一・第二・第三の3印刻は各側

日本帝國産トゲグモ類 3 種

〔岸田論文附圖〕



(Kishida et Sekiguchi del.)

解説 1. トゲグモ *Gasteracantha kuhli* p. 144 2. ハラビロトゲグモ
Pachypleuracantha sauteri p. 146 3, 4, 5. チブサトゲグモ *Thelacantha*
mammosa p. 147 3. ムナスデウスイロ型 4. ソデグロ型 5. セスデ型

で前曲の弧を描いてゐる。各印刻は大體橢圓形卵形で、且つ先づ同大同形であるが、内位のは狭く、外位のは廣い傾をもつてゐる。次に第三・第四・第五の印刻も各側で前曲弧を描出して居る。此の内、第四と第五が第一棘の夫々前後に占位してゐるのである。第四は内大外小、第五は内小外大の卵形を呈して居る。第六印刻は第二棘の内方に在つて、多少共第四印刻よりも中線に近寄つて居る。第七・第八・第九の3印刻は各側で弱く後曲した弧上に立つて居るのであるが、兩側の第八・第九の2對の印刻を達觀すると、先づ端直な1横列をなしてゐることがわかる。中域の4印刻は前狹後廣の梯形を畫して居り、前中印刻は小さいが正圓形に近く、後中印刻は大きいのが横軸に延でて居る。中線近い所に在る微細印刻は普通8個あつて、その排列は前3中 $\frac{2}{3}$ 後1の式を示して居り、中者は後中印刻を挟んで位置して最も小さく、後者は第九印刻間の中線上にあつて最も大きい。棘はすべて無砧性のものであるが、第一は最小、第二・第三は一見では同大であるが、よく見ると第三の方が大きい。背楯も棘も、共に周縁には小齒を連綴して居る。

色彩=相當に變化がある。筆者が型的(原記載に合致すると云ふ意味ではなく、普通に會はす型であると云ふこと)と見る標品では、背甲は褐黒色、後方胸部の一部分は淡い革黃色。胸板は灰褐色の地に、第一・第二兩脚の基節間に弱く前曲した小さい弧狀又はへ狀の淡褐色の明斑を有する。上顎は全體背甲同様の濃い褐黒色。下唇部や下顎は地が灰褐色で、前者の前外縁、後者の前内縁が灰白色をして居る。腹楯は黃色—黃白色の地に、青黒色の斑紋と褐心黒輪の印刻を有する。腹部下面は黒地に7條の横溝の前方に在る畝の上に並ぶ少數の小桁狀の黃斑を有つて居る。

附記=コツホ氏の原記載につけてある着色圖(Fig. 262)は、日本では極めて稀に見るところの型である。即ち、背甲は地が黃褐色で、黒點の縁を有し、腹楯は褐黃色の地に、褐心白輪の印刻と、褐色ばんだ棘を有するものである。少數の標品しか見ない人だつたら、一寸日本産の普通品に前出の學名を充てる

勇氣は出まい。

Ⅱ ハラビロトゲグモ *Pachypleuracantha sauteri* F. Dahl, 1914

(Mitt. Berl. Mus. S. 272, 281)

分布=臺灣。今日のところでは先づ臺灣特産と云ふべきものらしい。十餘年前農學博士高橋良一氏が採集惠與されたのをしらべたのが筆者としては初見である。その後度々入手することを得たが、個體數は多くはない。先年(1935)採蟬旅行に際しては、平地でも山地でも採集することが出来たが、何時も樹間ばかりで見付けたのであつた。

測定=♀の全長 80 mm. 背甲の長さ 37 mm. 同その幅 3.5 mm. 腹部の長さ 6.5 mm. 同その幅 13.5 mm. 棘を加へて測ると、長さ 7.5 mm. 幅 19.0 mm. 位になる。

形状=背甲は2個の低い中丘と、之に連なるところの左右W字狀の畝から前の頭部が割合高いのであるが、丘間溝は深くて顯著であり、且つ又中眼域までも屈いてゐる位で、長い。腹楯は一見横にした縦縞の形をしてゐるが、實はよく見ると八角形である。前縁は前曲し、背甲を被ふところで角張り、中央部はむしろ後曲とも云得る位の截形をしてゐる。後縁は明かに緩かな前曲である。第一・第二兩對の印刻は端直な1横列を爲してゐるが、何れも倒卵形であつて、第一は狭く、第二は廣い。大形な第三・第四・第五の3印刻は斜向の直線上に立つて居り、第四は第一棘の内方、第五は棘後に位する。第六・第七は後縁に沿ふて在るし、夫々第五・第四よりも内方にづれてゐるし、又小さく且つ扁平である。第八・第九兩對の印刻は最小ではあるが、丸味が強く、殊に第九は殆ど正圓形をして居る。中域の印刻は扁平であつて、少々高い梯形を畫して居る。前中印刻は外が前に向ひ、内が少々後を指して居て、小さい。後中印刻は眞横を指し、大きい。中線近くの微細印刻は8個で、すべて殆ど正圓である。排列は前3中 $\frac{2}{2}$ 後1で、トゲグモに似てゐるが、最後のものが他よりも目立つて大形である。此の外に第三印刻・前中印刻と三角形を畫する微細な1個が、前2者の外後方に在る。黒心褐輪の小さいものである。棘は第二が破格に長大であつて、弱く前曲し、末端は幾分上後方を指す傾がある。第三棘は尋常、第一棘は特別に小さい。すべて周縁に小齒を具へて居る。此の外、第一棘の近くと第三棘同志の間の所は、腹楯上に小砦を密布して居る。毛はすべて周縁とその近くにだけ目立つてゐる。

色彩=背甲は暗褐色、頭部は前方が淡い、胸部は兩側と前中部が濃く、後中部は淡黃白色をしてゐる。胸板は褐黒色の地であるが、前縁近く第一脚の基節間に美しい赤褐色一時には橙黃色一の小斑を有し美しい下唇部は褐黒色、但し前縁は灰白色。上顎は暗褐色であるが、前基部は淡い。下顎は褐黒色で、前外方へ褐色ぼんで居り、内縁と前内半が灰白色である。腹楯は地が黃色一淡黃白色、印刻中で大きいのは灰心褐輪、小さいのは

赤褐色。棘は褐赤色で端が黒ずむ。縁には淡黒斑が在る。腹部下面の地は灰褐色であつて、その上に夥しい黒點があり、更に可なり多数の小黄斑が6列位に並んでゐる。黄斑の外廓は色々で、桁形のもの、丸いもの、卵形のものなどがある。又黄色も鮮麗である。

附記=筆者は此の臺灣特産種も實はジャバ産 *Pachypleuracantha transversa* C. L. Koch 1838 オーストラリア産 *Pachypleuracantha fornicata* (Fabricius, 1793) (sub: *Araña*) と共に、一つのホルメンクライスをなすものであつて、命名上の技術から云ふと、獨立種としない場合には、ホルニカタの亞種とするか又はその色相とすべきものと考へるのである。ダール氏はフランスペルサの棘を長いし黒又は青としてゐるけれども、コツホ氏の実記載や筆者の有するジャワ標品によると、棘は赤いし、長さも大差無い。又、ホルニカタの胸板は地を黄色としてゐるけれども、此の差も大したものでは無い。

III チブサトケグモ *Thelacantha mammosa* (C. L. Koch, 1845) sub :

Gasteracantha. (Arachniden Bd. 11, s. 57, 58, Fig. 879. Brasilien (?))

主な異名 = 1) 1857 — *Plectana brevispina* Doleschall. 2) 1859 — *Plectana flavida, roseolimbata et mediofusca* Doleschall 3) 1860 — *Gasteracantha mammeata et guttata* Thorell. 4) 1863 — *Gasteracantha borbonica et alba* Vinson. 5) 1869 — *Isacantha canningensis* Stoliczka 6) 1871 — *Gasteracantha suminata et mastoidea* L. Koch. 7) 1878 — *Gasteracantha maculata* Karsch (ad pt.) 8) 1879 — *Gasteracantha observatrix* Pickard-Cambridge 9) 1890 — *Stannoclavus latronum* E. Simon (Mariana) 10) 1933 — *Gasteracantha brevispina, sola, sparsa et formosana* Saito

別な和名 = 1) フタホシトゲグモ 2) クロホシトゲグモ 3) ブチトゲグモ 4) タイワントゲグモ。

分布 = 本州中部以南、四國、九州、琉球、臺灣、紅頭嶼、小笠原、内南洋、ヒリピン、ボルネオ、セレベス、ニューギニア、ヒージー群島、オーストラリア、ニュージーランド、ロンボク、ジャワ、スマツラ、南支那、海南島、シヤム、馬來半島、ビルマ、ニース、アンダマン、ニコバル諸群島、印度、セイロン島、レユニオン、モーリシアス島、ブラジル (???)

測定 = ♀の全長 8.5 mm. 背甲の長さ 3.5 mm. 同その幅 3.5 mm. 腹部の長

さ 6.0 mm. 同その幅 8.0 mm. 棘を加へての長さ 7.5 mm. 幅 9.5 mm. 位である。

形状＝背甲は尖つた唯1個の中丘を有する。それより前方と側方とへは、同程度に低下してゐる。但し、中丘と中眼域との間には深さや幅の一定しないくぼみが在る。中丘が1個きりであるから、丘間溝は勿論無い。故に此のくぼみは特別なものである。腹楯は外形、棘状、中凸度（色彩も）に變異が多いが、大體長幅の差が尠く、前廣、後狹になつて居る。屬名テラカンタや和名チブサが語る如く、第二・第三兩對の棘が、乳嘴状の棘砧上に立ち、色彩や小齒の工合で、非常に判然と砧性を讀むことが出来る。第一棘に砧が在るか否かに就ては言明はむづかしいが、中凸度の低い標品で見ると、砧を缺いてゐると云つた方が適切な様である。第一・第二兩印刻は異大異形であつて、第一は大きくて長橢圓形、第二は小さくて三角形一倒卵形である。その排列の工合は、大體1横列であつて、前端をつなぐところの線は大體直線であるが、後端線は後曲してゐる。第三・第四・第五の3印刻は前曲弧上に立つて居り、大きい。第六・第七・第八の3印刻の中心をつなぐところの線は、斜向の直線である。但し、第七印刻は特に長大なものである。兩側に於ける第八・第九の兩印刻は前曲弧上に立つて居る。中域の印刻は最も高い梯形を畫して居り、前中印刻は卵形、後中印刻は曲玉形である。中線の所の微細印刻總数は11個、その排列式は前3中 $\frac{2}{3}$ 後1である。第一前印刻は横向の橢圓形で、かなり大きく、他は圓形一倒卵形であつて、後印刻は縦向であり、且つ最大形である。皮面にこまかい網目が敷石を詰めた様に發達してゐる外に、亞縁部には披針形の小圈が在る。

色彩＝その變化の多いことは古來有名なものであり、又そのために今日幾多の異名を見てゐる次第であるが、頁數の制限上、本邦で見る最普通の色型を記しておく。背甲は地が暗褐色、頭部の中線上に1本の稍廣い黒條、兩側にも各1本の黒條が在る。胸板は地が黒褐色一褐黑色、それに倒V字形の脚の後向に長くのびたところの赤褐色一黃褐色の斑紋が在る。肩角には不明の明斑が見ら

れる。下唇部は基本は暗褐色、尖った前半は淡褐色である。上顎は地は暗褐色であるが、前基部はいく分淡い。下顎は外基部が褐黒色で、内前角に向ひ褐色になり、内縁と前縁内半は灰白色を呈してゐる。觸肢や歩脚は地が褐色で、濃淡があるし、暗褐輪などがある。腹楕の地は淡い褐黄色—乳黄色であつて、灰心褐輪の印刻が在る。更に各側の中印刻間の外方に夫々淡地の星斑を示してゐる。腹部下面は地が淡褐黄色であつて、6—7條の横溝の前の畝の後半位に汚れた不整の黒斑を有つてゐる。

附記—コッホ氏の原文には“背甲と上顎は褐黒色。觸肢と歩脚は黄色で、黒輪を有する。腹楕は革黄色であつて、暗赤褐色の小印刻がある”と出て居り、圖には腹楕中域の印刻間外方にあたつて、何等星斑状を描いてない。古い乾品を見たものらしい。それから、その標品の産地をブラジルとしてあるのは、何かの誤であると思ふ。

訂 正

本誌第二卷第二號の仲辻耕治氏「フィリッピン産トカゲ及び蛇に寄生せし壁蝨に就て」中に次の如く訂正の御申出がありましたので此所に正誤表を掲げます。

頁	行	誤	正
65	2	繪畫行脚の序に	繪畫行脚の際に
	9	出来ない種であるが	出来ない種類であるが
	10	Amblyomma (二箇所)	Amblyomma
66	18	(Neumann, 1899)	Neumann, 1899
	1	(Koch, 1844)	Koch, 1844
	2	右の學名を挿入する	A. dissimile Koch, 1844
67	4	眼と頸溝に各	眼と頸溝の間に各
	4	直の直徑だけ離れる	其の直徑だけ離れる

序に寄稿者の各位へお詫びとお願ひを申上て置きます。校正是入念にやつて居る筈ですが、何分一人で大意ぎでやる事ですから、時々誤植があつて申譯ありません。謹しんでお詫び致します。尙原稿は成るべく楷書で正確にお認め下されば校正も樂だし、誤植も少いと思ひますから、御執筆の時に御注意下さい。又前號の別刷の表紙に October, 1937 とすべきを July, 1937 と誤つたのは印刷屋の方で第2號の紙型を間違へて使用した結果とわかりました。不悪御容赦下さい。(植村利夫記)